**7月18日　自然電力株式会社　代表取締役　川戸　健司　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

川戸さんが今までの経営者の方々のばちばちした熱意とはうってかわって、奥に秘められた確固たる信念がある印象をうけ、驚きました。とても謙虚な物腰ですが、淡々と語るその経歴はすごく覚悟の必要な行動の山積でした。風力発電所に勤めておられた際に上司さんが続々と会社を辞めていかれた方に続かず、留まり、また逆境の際にも、1年間給与なしで働かれていたことにはすごい覚悟と忍耐力を感じました。「自分ができないことは人に頼む」それはとても良い言葉だなと思いました。団体で行動にあたって、人と助け合うことを見逃しがちである私にすごく刺さる言葉でした。「努力を事前にいかにするか」「自分で制約をつけないこと」これらはシンプルですが、学生である私にとって大切な教えなのだと肝に銘じたいです。（理工学部　化学応用学科　３年）

「人のためになったり、役立つ仕事をするのはかっこいい」という言葉が川戸さんに響いたように、私にもとても響いてきました。私も経営学部に入ってきましたが特に起業してみたいとは考えてきませんでした。経営戦略やマーケティングのことを学んで将来働くときに役に立てばいいと思います。その仕事が人のためになり、役に立つものであればいいと思います。「とにかく誠意が大事」という言葉も印象に残りました。企業はお客さんがいないと成り立たないし、誠実さは大事だなと思いました。企業だけでなく、個人としても人への誠実さは大切なので、気を付けていきたいと思います。(経営学部　1年)

「何ができるか」は考えない。今できないことはどうやってできるようにするかを考えるという言葉は印象に残った。確かに何ができるかは考えたところで進歩することはない。今できないことに対して試行錯誤をしつつ挑戦していくことが大切なんだなと感じた。「なんでもいいから続けてみると2年３年した時に必ず何か見えてくる」という言葉も印象的だった。続けることは大変で、２年３年同じことをやっていくためには根気がいるし、飽きてしまったときにモチベーションを高める必要がある。ただそれをすると得るものがあるという話を聞けたことはやっていく際の土台になる。（経営学部　２年）

ご自身のことを「リーダータイプではない」「ダメな学生時代を過ごして来た」と分析していた。しかし、家族や大学の助教授、当時の彼女から様々な影響を受けて、就職時にも苦しく厳しい道を選んで進んだことで自身の成長の糧としていたということを聞いた。自分はそのような場面では楽な道を選んでしまい、確かに楽だが甘い自分の成長や達成感を感じないことが多かった。自分のこれからの人生を理由のあるものにすべく、今のうちから苦労するべきだと考えを修正した（理工学部　化学生命　３年）

自然電力株式会社という名を初めて聞いたが、事業内容は想定通りだった。特に原子力や火力などの発電は効果的かもしれないが、環境への影響も大きく、3.11以降はより敏感になっている中で自然発電を行うのはとても大事であり、我々も意識すべきだと思った。また、自分がリーダータイプではないと気づき、自分に適したやり方で会社をうまくまわしていくのは素晴らしい考えだと思うし、見習いたい。“人生を賭けられる仕事”に出会い、本当に賭けられるかを模索したい。1人で全てこなすのは無理でも、自分のできるところまで全力を尽くせば周りも手を貸してくれる。もちろん良いことだけでなく、反対や衰退というくらい面はあるわけであり、そこで逃げるのではなく、立ち向かい乗り越える努力が必要である。自分たちで“使命”だと思い込んでしまえば、それがおかしかろうと次へつながるアクションになる。個人的には全てから逃げないのは誰もできないと思うので、たまには逃げることがあっても進み続けたい。（経営学部　経営学科　1年）

シンボジウムでの成功体験がよくなかった学生から脱却できた原因だと言っていた。自分で考えてテーマを決めて自分が持っている知識を使ってオリジナルなものを作るのはとても達成感のあることだと思った。東日本大震災で停電が起こり、世の中の関心が発電に向いたときに機会を逃さずに起業をしていてすごいと思った。その機会が来るまで無給ではたらく我慢強さが素晴らしいと思った。起業して間もない内にドイツに行き大企業と提携を勝ち取った理由が行動の速さだったのでフットワークの速さを学ぼうと思った。（理工学部、化学生命学科、2年）

私はビジネスを通じて社会貢献を行いたいと考え、経営学部を志望しました。そのため経済的意義と社会的意義が両立できる仕事には強い憧れがあり、川戸さんの考えに深く共感しました。まず、社会から何が求められているかを考え、自分は何をすべきか上限を決めずに取り組むという単純ながらも最も重要な方針を大切にされていたり、誠実、挑戦、信頼というコアバリューを尊重されていたりして、そういった会社の芯がしっかりしている企業は、周囲からの評価を得られるのだろうと思いました。また、今後の行動につなげていきたいと思ったことが多くあり、お話を聞けて良かったです。ありがとうございました。（経営学部　経営学科　1年）

今できることを考えるのではなく、できないことをどのように将来できるようにかえるのかという挑戦と向上心が大事であると学びました。リーダーになるうえで自分の目指すビジョンをルールにして、周りの目指す方向性を一致させつつ、自分が天井にならないことで、会社内全員の向上心を無限に保ち続けるということの難しさを知りながらそういった取り組みを続けることで、活発的な会社がつくられると感じとっても重要であると学びました。誠実、挑戦、信頼という3つの言葉はとても重く、しかし、周りからの信頼を集める点で重要であると感じました。(理工学部　化学・生命系学科　2年)

学生時代からベンチャーを立ち上げたりする、経営者の方も多い中で、就職先での経験を通して、電力の会社を作ったのがすごいと思いました。苦労は買ってでもしたほうがいいという言葉が印象的で、自分で立ち上げたわけではなくても、給料がなくても、その仕事を続けられたのがすごいと思いました。制約の中で、諦めるのではなく、まずやってみて、できる人に助けを求める。そのことによって、資金を得たり、事業が成長したのだと思いました。まず、やってみるということを学ぶことができたのでよかったです。本日はお話ありがとうございました。（経営学部　会計・情報学科　２年）

川戸さんが「自身はリーダータイプではない」と言い切ったうえで、世の中への問題意識からくる「使命」を実現する“方法”がたまたま起業だった、といったお話がとても印象的だった。起業やビジネスそのものが目的ではなく、手段として、社会への還元、貢献していくことを目指すことが大切であると感じた。（経営学部　会計・情報学科　３年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

良いところだけ味わうのは良くない、役に立たないという言葉に衝撃を受けた。自分もつらいこと、しんどいことを経験して糧になるように努力していきたい。（経済学部、経済学科、1年）

「限界は思ったより遠く」という言葉に非常に納得しました。例えば何かの課題をやるとき、期限に向けてとりあえず書いて、自分で「ここまでか」と決めて提出します。これはある意味思考の限界を自分で勝手に決めつけているようなものです。一度際限なく１とのテーマについて思考をしてどこまで深められるかやって自分の限界を考え直す機会を得ようと思いました。（理工学化学生命学科３年）

必ずしも楽な道を選ぶことが正解ではなく、むしろ苦労する道を選んだ方が後の経験値につながることもあるのだということを知り、楽かどうかを基準に物事を選択するのではなく、その選択が自分にどんな影響を与えるかということを考えて、選択・行動していきたいと思いました。また、辛い選択をしてしまっても、続けることにより得られる意味もあると学んだので、逃げ出さずに続けるという意識で行動していきたいと思います。（経営学部　経営学科　１年）

川戸さんのお話のなかで、問題意識から来る「使命」という言葉がありました。私は、何か身の周りや社会で何か問題がおこっても。「誰かが解決してくれるだろう」「自分には解決できない」と思いがちであったため、「それは無責任だ」という川戸さんの言葉にギクッとしました。他人任せな自分の姿勢を改善しようと思いました。（経営学部　１年）

私たちへのメッセージの、①色々な人の話を聞く、②思ったことを行動に移す、③何でもいいから続けてみる、④大変な方を選ぶ、というのを意識して行動したいと思います。特に①は今からでもできるし、③は現時点で長く続けていることがあるので、続けていきたいと思いました。（経営学部　国際経営　2年）

**授業スタッフの感想**

今回の川戸さんの話は、このリーダーシップの授業の中でもかなり自分にとって大切な時間になったというか、とても参考になった回だった。今現在やっている事業を説明してくださるよりも、それまでの経緯（例えばどのような家庭環境だったか、どのようなことを学生時代に考えてきたか、など。）を伝えてくださると、自分と照らし合わせやすいし、自分と環境が似ている場合は、どの部分の思考の仕方が異なるのかなど考えられるからだ。今回の話で参考になったのは、川戸さんは中学生の時に既に自分の人生で大切にしたいものなどを考えていたのにもかかわらず、大学に入ったら遊びまくっていたということだ。それでもそこから変わって結局現在は起業するまでに至っている。人間わからないものだなあ、面白いなあ、と感じた。

川戸さんの「走りながら考える」という言葉は、何事もまず考えて計画通りに行動したいと考える私にとっては衝撃的でした。「何ができるかは考えない、今できないことはどうやってできるようにするかを考える」というのはこれからの考え方に参考にして、可能か不可能かを基準に行動するのではなく、不可能を可能に変えていくことを念頭に行動していこうと思いました。